

# 2024年度・第3回定例学術研究会のお知らせ

◎日 時 2025年1月17日（金）15:00～17:30

◎会 場 中国研究所会議室（対面+ zoomオンライン）

Zoomリンク

<https://zoom.us/j/9533947788?pwd=QkNhbXdGTk93cldZdFJsZ1IURXRiQT09>

ミーティングID: 953 394 7788

パスコード: 171438

会場の関係で対面参加は10名に限定いたします。  
対面参加希望の方は、必ず事前にsona0001●Kanagawa-u.ac.jpに連絡ください。

中国研究月報  
Monthly Journal of Chinese Affairs

一般社団法人 中国研究所

Institute of Chinese Affairs

中国  
年鑑

司会 孫安石（中国研究所常務理事、神奈川大学）

（1）報告1（15：00～16：10）

報告者：東家友子（神奈川大学 D2年）

論 題：「魯迅の木刻版画と西洋美術」（仮）

【報告要旨】

魯迅は新興版画運動の唱導者としても知られる。中国の新興藝術促進のため、『藝苑朝華』シリーズをはじめとする外国版画作品集を出版し、国内へ紹介した。本発表では、『藝苑朝華』の第1集及び第3集『近代木刻選集(1), (2)』に焦点をあてる。1929年初頭に出版された両集は、当時のイギリスの美術文藝雑誌等にて紹介されたヨーロッパを中心とする外国版画作品、作品解説、および魯迅が日本の創作版画関連書籍を参考に執筆した序文から成る。両集を手掛かりに、19世紀末から20世紀にかけて欧米及び日本にて盛り上がりを見せた版画運動の影響や、当時の魯迅の近代木版画観、中国国内への影響等について検討する。

◎コメンテーター 鈴木将久（東京大学）

（2）報告2（16：20～17：30）

報告者：駱豊（早稲田大学 助教）

論 題：「占領期における中国研究所の中国認識—GHQのメディア検閲と国共内戦」（仮）

【報告要旨】

戦後日本の中国研究は、GHQの検閲下で再出発した。GHQの検閲方針は、戦前の中国蔑視の払拭から始まったが、国共内戦の情勢及び国際的な冷戦によって、次第に共産主義と左翼に対する抑圧に移った。一方で、国共内戦の情勢によって、中国研究所の問題関心も次第に中国共産党およびその政権に移った。本発表では、GHQのメディア検閲と国共内戦という「外因」の影響のもとで、占領期における中国研究所の中国認識の変化について検討する。

◎コメンテーター 川島真（中国研究所常務理事、東京大学）

一般社団法人中国研究所

〒112-0012 東京都文京区大塚6-22-18

TEL: 03-3947-8029

E-mail: [c-soumu@tcn-catv.ne.jp](mailto:c-soumu@tcn-catv.ne.jp)

URL: <https://www.institute-of-chinese-affairs.com>